

ニュージーランドの介護制度に関する調査研究

サマリー

本研究は、ニュージーランドの介護制度の実態を把握し、日本の制度改革への示唆を得ることを目的として実施した。ニュージーランドでは、Health New Zealand が制度運営と資金提供を担い、65 歳以上高齢者等を対象に、NASC による統一のアセスメントを経て在宅・施設サービスが提供されている。特徴は、政府により interRAI の使用が義務化され、専門職が全国共通の評価ツールに基づきニーズを判定している点である。アセスメントとサービス提供主体を制度上分離することで評価の客観性を確保し、ICT を活用したデータ蓄積により経時的変化の把握や政策評価を可能としている。また、在宅生活の継続を重視し、リハビリテーション理念に基づく包括的資金モデルへの転換が進められている。以上より、統一的な評価ツールとデータ活用を基盤とした制度設計およびリハビリテーションを中心とした支援モデルの重要性が示唆された。